

「権利擁護支援フォーラム in にいがた」報告

2011年12月9日（金）、全国権利擁護支援ネットワークの中部・東海・北陸ブロックにて、「新潟県における権利擁護支援の展開を考える」を副題にフォーラムを開催しました。今年度は新潟県燕市社会福祉協議会の皆様に現地事務局を担当いただきました。会場となった燕三条地場産業振興センター（三条市）には、県内外から100名にも上る多くの方にご参加いただき、窓の外では雪が舞い散る中、会場内は参加者の熱気に包まれました。

プログラム第一部は、鼎談「地域における権利擁護支援の意義と役割」と題して、今井友乃さん（知多地域成年後見センター：愛知県）、山田隆司さん（東濃成年後見センター：岐阜県）、関崎豊さん（アドボネットながの：長野県）にご登壇いただき、各地域の現況とそこに至るまでのプロセス、また個々の経験に基づいた権利擁護支援のあり方について和やかにかつ熱く語られ、参加者の皆様もご自身の地域に置き換えながら熱心に聴講されている様子でした。権利擁護支援を行う上での『連携』とは単にバトンを渡すだけでなく支援の輪を広げていくこと、とのフレーズが印象的でした。

第二部は、「新潟県における権利擁護支援の展開を考える」をテーマにパネルディスカッションが行われました。県内で活動されている、長谷川悦子さん（新潟市北区／地域包括支援センターくずつか）、宮越亮さん（上越市障害者相談支援センター）、大塚真光子さん（柏崎市社会福祉協議会／地域福祉課）、吉藤則彦さん（燕市社会福祉協議会／福祉後見・権利擁護センター）をパネリストに迎えて、コーディネーターとして田辺寿さん（伊賀市社会福祉協議会：三重県）にご参加いただきました。各分野における活動内容や地域の状況について紹介いただくとともに、後半には参加者の方からの質問に登壇者が答えるという双方向の形式も取られ、会場の一体感を味わうことができました。



本会終了後、自由参加の懇談会が行われ、予想以上に多くの有志の方にご参加いただきました。こちらでも多くの悩みや疑問が投げられ、それに対して活発な意見交換がなされました。「分かち合う」、その素晴らしさを改めて実感した「フォーラム in にいがた」でした。

最後に、本フォーラムの開催にご協力いただきました後援団体の皆様、登壇者の皆様、そして現地事務局の皆様に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

全国権利擁護支援ネットワーク事務局
特定非営利活動法人PASネット 谷 仁

※新潟日報の掲載記事（2011年12月11日付）



知的障害者らの 権利擁護考える

福祉関係者らフォーラム 三 条

認知症の高齢者や知的障害者らの権利を守る制度への理解を深めようと「権利擁護支援フォーラム in にいがた」が9日、

三条市の燕三条地場産業振興センターで開かれた。県内を中心に福祉関係者約120人が参加。成年後見制度などの権利擁護をめぐる現状や課題を考えた。

フォーラムは「全国権利擁護支援ネットワーク」が主催。ことし8月に燕市社会福祉協議会が県内で初加盟したことを契機に開催された。

パネルディスカッションでは、県内の社会福祉関係者が意見交換した「権利擁護支援フォーラム」9日、三

福祉士ら4人が討論した。

燕市社協の吉藤則彦さんは「福祉後見・権利擁護センター」の取り組みを報告。3年目を迎え相談や利用件数が増えており「職員の資質を高めることや利用促進への広報が課題」と指摘した。県内で権利擁護の支援活動を普及させるため、関係者の連携を呼び掛けた。

柏崎市社協の大塚真光子さんは社協独自の「地域福祉権利擁護サーブス」を紹介。「単にお金を届けるだけではなく、どうすれば自立支援につながるか判断が難しい」とした上で「その人が歩んできた人生を想像し一番いい対応をみんなで作っている」と述べた。